

# 地域と行政のつなぎ役 民生委員・児童委員のインタビュー

民生委員・児童委員(以下、民生委員)と主任児童委員の3人にそれぞれの思いを聞いてみました



## 気付いたら27年 母の背中を見て、自然と私も世話焼きおばさんに

地域のために力を合わせています。



▲左から山口さん(社会福祉課)、鈴木さん(民生委員)、渋谷さん(社会福祉協議会)

平成10年に初めて民生委員を引き受けた時、仕事内容を聞いて、母を思い出しました。

母は和裁の先生で、大きな紡績工場の女性たちに教えながら民生委員やPTA会長を務め、近所の人の相談に乗ったりもしていました。父もそんな母のために家事を手伝う様子を見て育ったので、**地域のために働くことは当たり前で全く苦ではありません。**兄たちにも「母によく似てきた」と言われます。

民生委員を務める上で大事にしていることは、自治会の行事や近所で地域の方と自然に顔見知りになることです。おしゃべりしていると、困っていることがポロッと出たりします。

民生委員はやりがいがあります。湖北台地区民協では「言いたいことはちゃんとやろうよ」と話しています。定例会後のランチでワイワイ話してるうちに、突破口が見つかったり、アイデアが出たりします。新メンバーも自然に仲間になりますよ。



湖北台地区民生委員児童委員協議会  
民生委員・児童委員

9期目 すずきゆきこ 鈴木幸子さん

## 仕事では味わえなかった喜び 頑張り過ぎない活動を心掛けています



第3地区民生委員児童委員協議会  
民生委員・児童委員

1期目 とらたにしんじ 虎谷慎治さん

暇そうにしていたからでしょうか、ある趣味の会で民生委員を務める先輩に誘われ、1年半前に拝命しました。新米なのでまだまだ分からないことも多いですが、3つの点に心掛けて活動に取り組んでいます。

一つ目は「福祉活動に参加すること」。担当地区の交流活動に参加させてもらい、効率的な情報収集ができるようになりました。二つ目は「頑張り過ぎないこと」。押し付けがましい訪問やお世話はせず、必要とされている方への対応に絞っています。三つ目は「自分の生活を優先すること」。自分の用事や趣味を制限せず無理のない活動をすることで、気持ちの上でも時間的にも負担を感じることはありません。社会に貢献できているという満足感も少々あり、仕事では味わえなかった喜びもあります。

民生委員の活動に興味がある方、ぜひ仲間になりませんか。

この日「能登半島地震後、便乗詐欺が横行し町職員の訪問は警戒されていました。そこで、民生委員が同行したところ玄関を開けてくれました。民生委員と住民の絆を再認識しました」という話がありました。



▲定例会の様子

## 子育て中の方に寄り添い、地域に恩返しをしたい

手遊びや絵本の読み聞かせなどをしています。ぜひ遊びにきてください。



▲定期開催の子育てサロン「ごっこひろば」

主任児童委員を引き受けたのは、自分が子育てをしていた時に周りの皆さんに頂いた優しさを、子育て真っ最中の方につなぐことで地域に恩返しをしたかったからです。

頼りない親だった自分がなんとか子どもを育ててこられたのは、さまざまな方の力添えと温かいまなざしがあったからです。毎日、どうすればよいのか泣きたくなるような日々の積み重ねでした。そんな時、先輩お母さんの助言はありがたく、優しいものでした。誰かに話を聞いてもらうだけで、心が晴れることもありました。

子育てに悩みや不安はつきものです。自分にゆとりがないと子どもの話も満足に聞けません。身内には相談しにくいこともあるので、主任児童委員が話を聞きます。

民生委員と連携して学校や行政との橋渡しを行い、子どもたちを幸せにしたいと心から願っています。



湖北地区民生委員児童委員協議会  
主任児童委員

6期目 おののあつこ 大野敦子さん

### 「民生委員に助けられた」という方からお便りを頂きました

仕事を休んでいた時期、ある民生委員の方と話す機会がありました。特別なことを言われたわけではありません。ただ、私の話をきちんと聞いてくれたのです。その時、体の力がずっと抜けて**気持ちが楽になった**ことを覚えています。私のように、話を聞いてもらうだけで救われる方がたくさんいると思います。今でも、あの時のことを感謝しています。